

第2者監査実施解説

環境監査のポイント



ススムパートナーズ株式会社
Susumu Partners Corporation



For Your Management Partner
未来にススム！信念で先にススム！他よりも先にススム！

経営に役立つ
蓄積された豊富な経験と実績の
「経営コンサルパートナー&ネットワーク」

未来にススム！ 信念をもってススム！ 他よりも先にススム！

環境監査のポイント



ススムパートナーズ株式会社
Susumu Partners Corporation

当環境監査プログラム

1. 認証取得時の監査

- 1) 対象. . . . 初めて ISO-14001 を
認証取得する会社、事業所
- 2) 内容. . . . ● ISO-14001 によるEMSの
構築状況、運用状況の確認

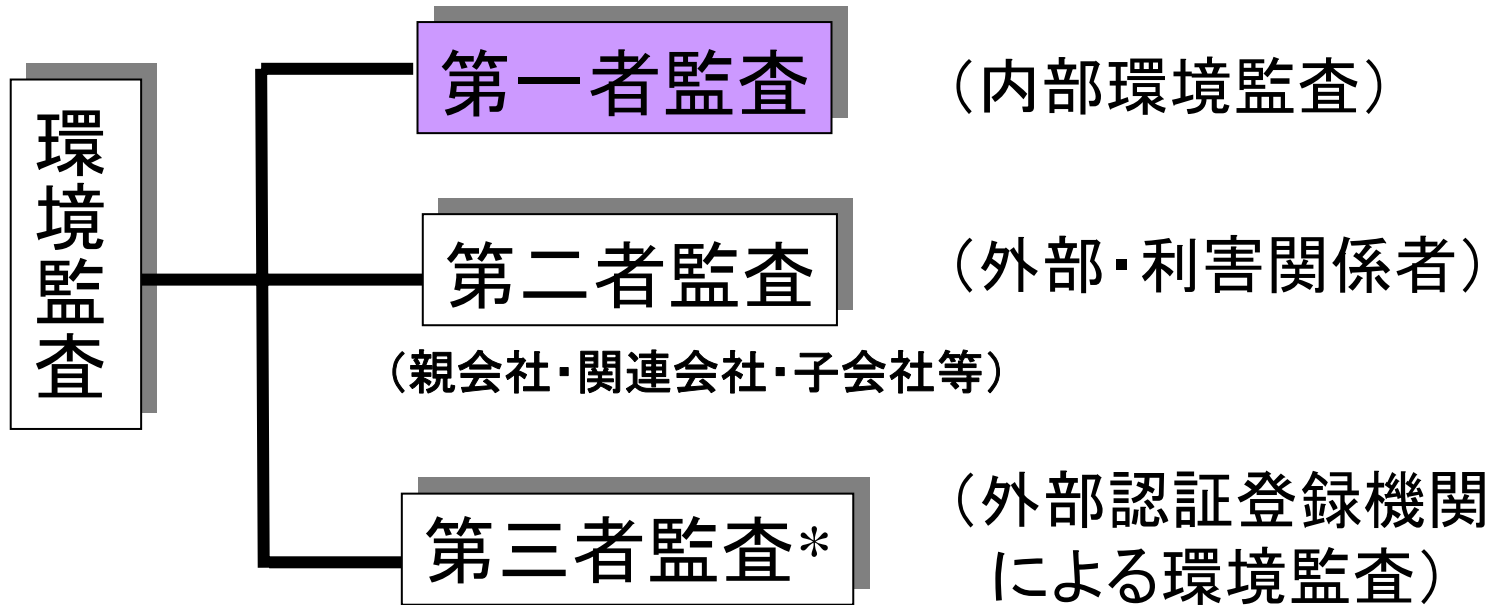
特にEMS構築の支援がねらい

初動審査、本審査の対応準備の支援

2. 臨時監査

- 1) 経営変化、環境の事故発生、社会動向の変化時

環境監査の種類



* 印は「監査」の代わりに「審査」と呼ばれることが多い

1) 定期監査

計画を立てて、全ての被監査組織を対象に定期に行う監査

2) 臨時監査

環境管理責任者・経営層の判断により、臨時に行う監査

環境監査のポイント(1)

(認証取得時)

(1)環境マネジメントシステムの構築状況確認

- ① 企業経営における環境保全の取り組み
- ② 環境影響評価のロジック
- ③ 内部環境監査の信頼性
- ④ 環境マネジメントマニュアルと関連文書の適合性／整合性

(2)各職場におけるシステムの展開状況確認

- ① 環境側面の把握と目的／目標への反映
- ② プログラムの妥当性(責任・日程・効果見積り等)
- ③ 著しい環境側面(有意／工程)の識別と環境作業手順書
- ④ 監視測定 of 仕組み／不適合是正の仕組み
- ⑤ 教育・訓練計画と実施状況

環境監査のポイント(2) (認証取得時)

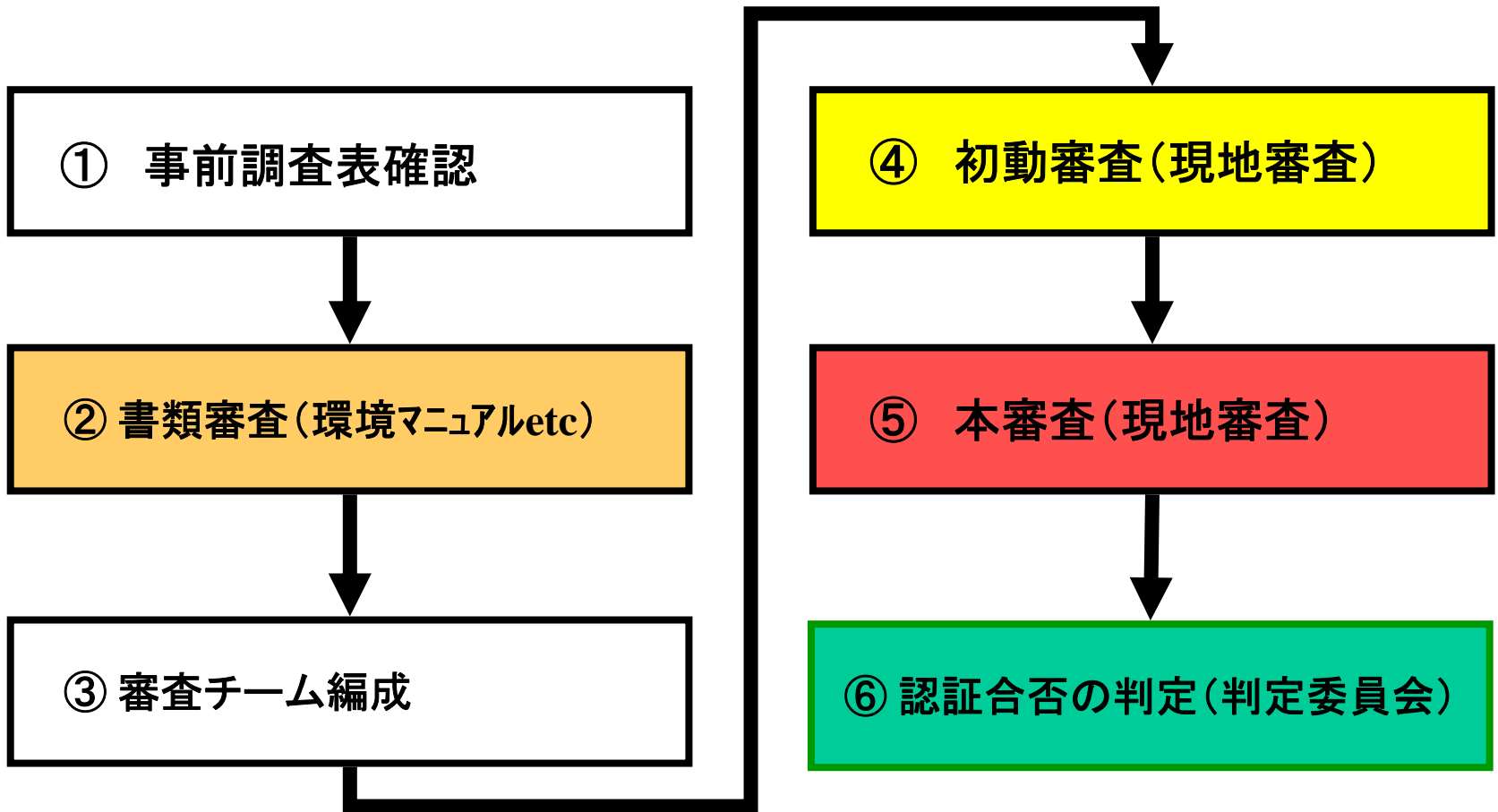
(3)環境パフォーマンスの実施状況確認

- ① 目的／目標取り上げ項目の実施および管理状況
- ② 自主管理項目等の実施および管理状況

(4)法的及びその他の要求事項の遵守状況

- ① 遵法を守る仕組みと遵守状況
- ② 自主規準の設定と監視／是正の仕組み

環境審査のフロー



初動審査の注目点

- 環境マネジメントシステムの構築と運用状況。
- 環境マネジメントシステムが、環境影響評価に基づいているか。
- 環境影響評価のロジックの妥当性及び著しい環境側面が把握されているか。(環境目的・目標への展開状況)
- 適用されている法規制等の要求事項が把握されているか。
- 内部環境監査の仕組みと信頼性の評価。
(監査手順、チェックリスト、監査計画、監査頻度、公平性、組織、監査結果)
- 経営者による見直し計画の有無。
- 総合的に本審査に値するレベルにあるか。
- 本審査での審査ポイントの絞り込み。
- 文書類の整備状況はどうか。

本審査の注目点

- 環境マネジメントシステムが、適用規格に適合し、方針、目的・目標を達成しつつあるか。
- 環境影響評価の結果と方針の整合性があるか。
- 方針・目的・目標・管理計画・実務管理の間の整合性があるか。
- 自ら定めた方針や環境マネジメントマニュアルに沿って、有効に稼動しているか。
- 環境パフォーマンスの実施及び運用、監視・測定、記録、報告、見直しが機能しているか各部署で確認。
(客観的な証拠として実績(遵法を含む)に基づいて確認する)
- 経営者へのインタビュー。
- 作業員へのインタビュー

判定委員会の注目点

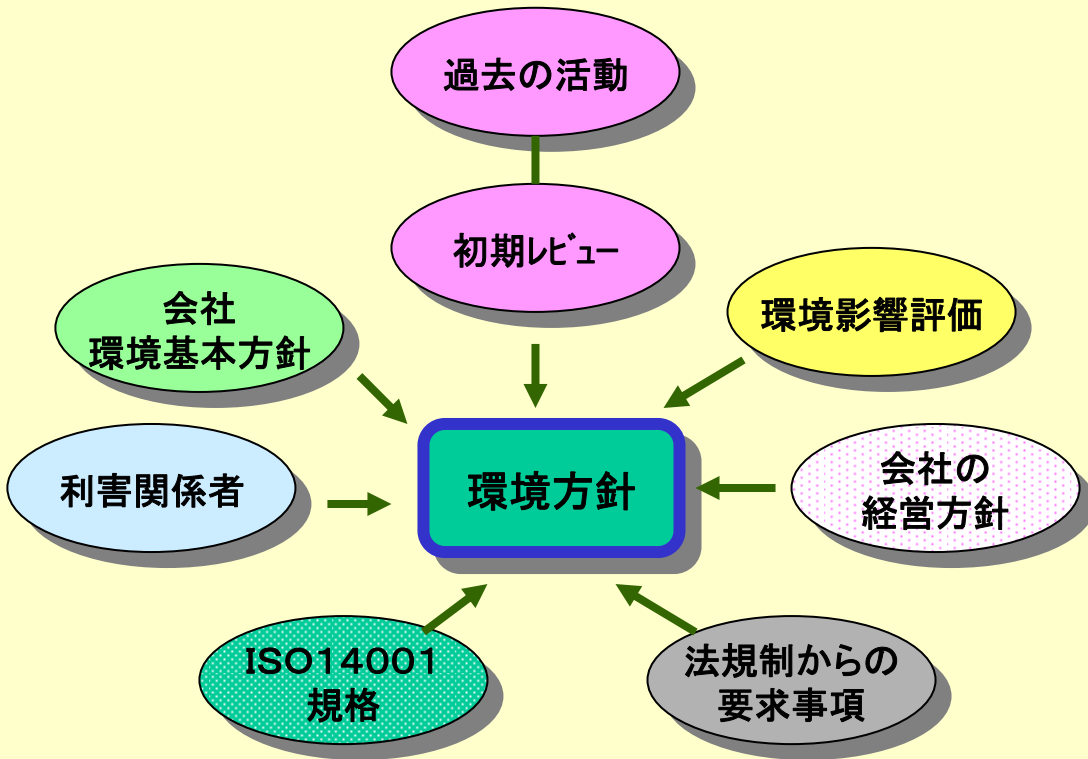
- 重大な不適合項目は**是正**されている。
- **法規制**を守る**仕組みが機能**している。
- **継続的改善**が図れる**仕組みが出来**ている。
- 規格が求める**教育、訓練等**が行われている。

(審査チーム構成が適性で、EMSを適正に審査している)

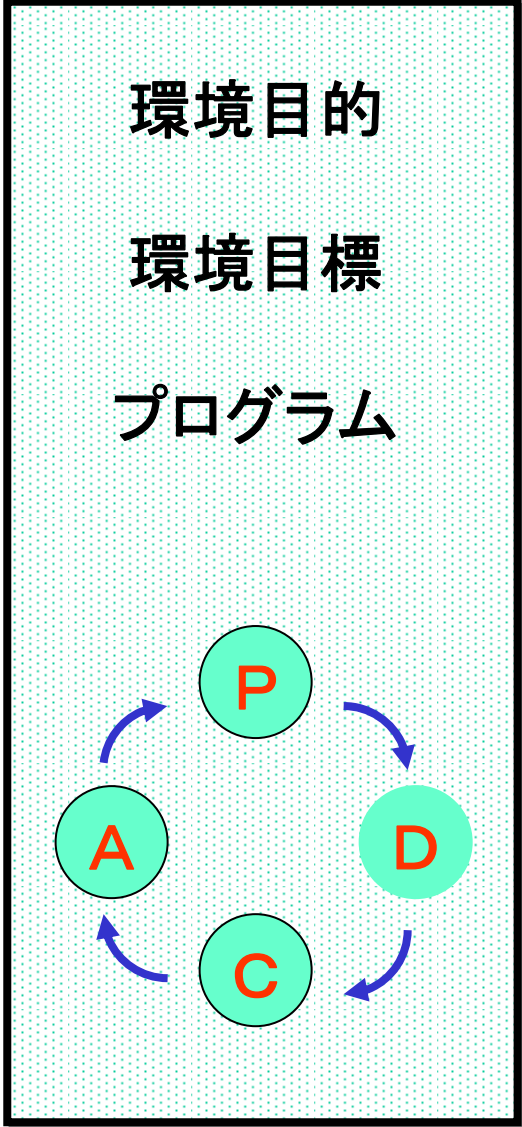
(判定委員は、外部の有識者の委員2／3以上で構成)

環境方針は社会の声明文(約束)

最高経営層が制定



- 継続的改善、汚染の予防、法遵守等を誓約
- 事業活動、製品及びサービスとの妥当性
- 文書化し全員に周知、誰でも入手可能



環境方針

環境側面・影響評価

法規制・技術レベル・財務状況・利害関係者の関心等を考慮

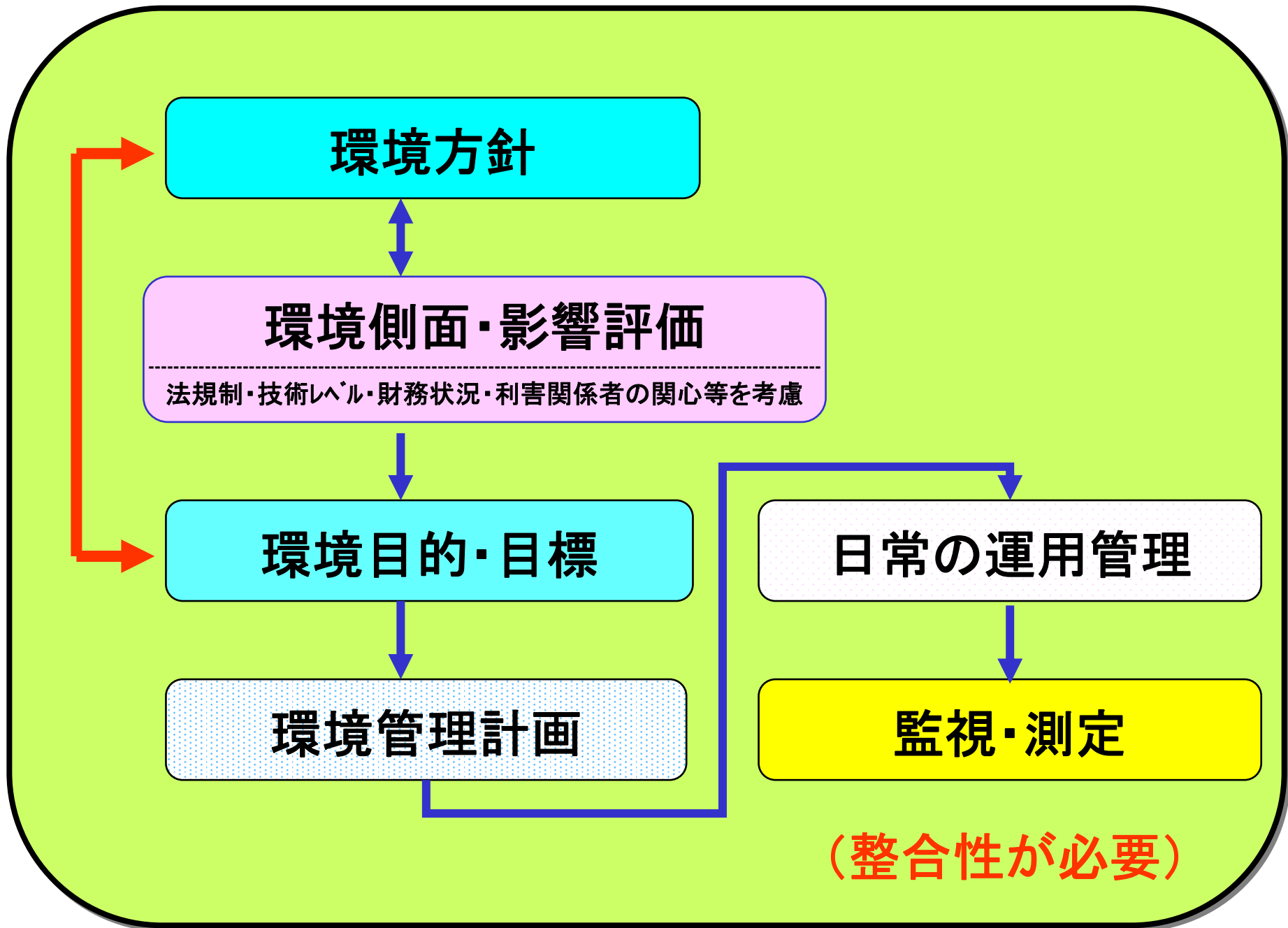
環境目的・目標

環境管理計画

日常の運用管理

監視・測定

(整合性が必要)



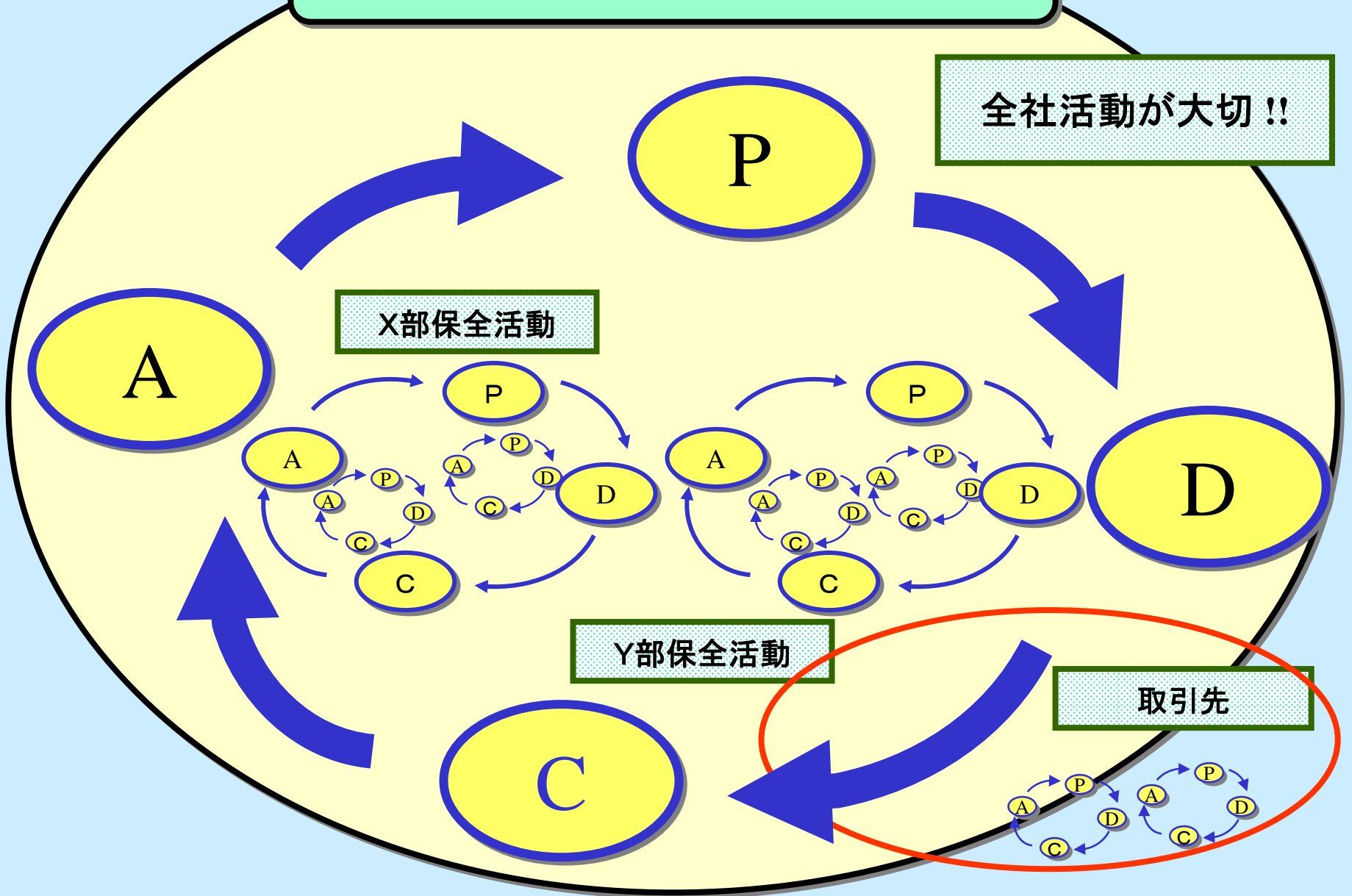
EMSの構築の要は

4. 3. 1 環境側面にある。

『環境側面』『環境影響』『環境に著しい影響』
を明らかにすることであり、

『環境方針』『目的・目標と実施計画』
などが出発点である。

環境マネジメント・サイクル



全社活動が大切 !!

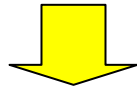
X部保全活動

Y部保全活動

取引先

経営層の役割

環境保全活動への**コミットメント** ⇒ 環境の初期調査



①**最高経営層**は**環境方針**を定める。
(環境影響評価に見合ったもの。
継続的な改善・汚染防止の誓約。
法規制の遵守。全従業員への周知。方針の開示)

②**最高経営層**は責任・権限を与えた**管理責任者**を任命する。

③**最高経営層**は環境マネジメントシステムを**定期的**に見直す。

④**経営層**は環境マネジメントシステムの実施・管理のための**資源**を提供する。(人・物・金)



継続的改善を図る

【 ISO-14001 のEMSの運用は】

企業の経営上の特別なものではなく
通常のマネジメントと同じように
運用することを要求している。

【 ISO-14001 序文】

『このシステムの成功は、
すべての階層及び部内の関与、
特に、最高経営層の関与いかに
かかっている。』

職場での説明(1)

(1) 職場の説明者を決めておき、予め練習をしておく。

(2) 職場ボードでの説明内容の例:(説明は順序良く)

- 自己紹介、職場環境の推進組織、作業内容(主な作業工程)
- 環境側面、法規制登録、環境影響評価結果
- 環境影響評価登録結果(定常時・非定常・緊急時・間接・過去等)
- 目的・目標・プログラム・効果の見積、運用管理(担当者・責任者)
- 想定される非定常・緊急時、環境に有意な作業
- 有意作業の環境手順書・教育・訓練・テスト・記録
- 社員教育とその記録
- 協力会社への周知・教育・記録、校正対象機器リスト

各職場での説明では、

- ・全社の環境方針・環境影響評価登録結果・目的・目標・プログラム等との整合性に注意。
- ・該当部署と全社との繋がりを説明し、全社的な説明は省略する。
- ・環境ボード等の掲示物は、審査員だけでなく自職場の社員への教育用であることを意識して、見やすくする。)

職場での説明(2)

- (3) 文書類、記録類は直ぐに出せる様に揃えておく。
(特に教育記録、手順書、有意作業、遵法、自主向上項目)
- (4) 説明者は、EMS を十分理解しておく。
- (5) フォローする人を決めておく。
- (6) 質問の内容が理解できなかった時は、再度聞き返す。(但し EMS の初歩的な内容のときは、他の人がフォローしてあげる。説明者が恥じをかかない様に)
- (7) 聞かれたことのみ適切に答える。(余計なことは言わない。不明瞭な回答はしない。)
- (8) 規格の要求事項に関係ない技術的なノウハウは答えなくとも良い。
- (9) 規格の要求事項に関係ない内容と思われた場合は、規格のどの項目に該当するか、やんわりと聞いてみる。(連発は禁物。要注意。)
- (10) 職場の環境責任者は、職場の EMS 運用に影響力を出していること。
(説明の時は同席すると EMS に関与しているとアピール出来る)
- (11) 全社活動であることを認識しておくこと。

その他

- ① プラントツアーでは、職場の裏方が見られている。
(上手に説明しても、裏方が悪いと、職場の管理レベルが疑われる。 **5S等に注意。**)
- ② 環境に有意な工程、薬品(**MSDS常備**)、廃棄物置場などには、管理手順・手順を守らなかった時の環境への影響・管理責任者・緊急時の対応等を表示する。
- ③ 初動審査では、職場での説明は簡略化される場合がある。
- ④ **本審査**では**作業者に直接インタビュー**がある。教育の実施状況等確認される。
- ⑤ **本審査**では**トップインタビュー**があります。
- ⑥ オープニングやクロージングミーティングには、関係者は出来る限り全員出席する。(全社活動をしていることをアピールする)
- ⑦ **初動審査**と**本審査**の**質問のレベルが違う**ことを認識しておく。
初動審査が楽に通っても本審査では、細部まで見られる。

皆なが、環境を良くするという

自覚が第一であり、

ISO-14001 は、

その思いを達成する手段です